

社会福祉法人健康の森学園 平成25年度事業報告

① 利用者支援の充実

- ・利用者本人及び家族の意見に基づいた個別支援計画を作成し、定期懇談会により支援計画の現状確認と今後について、学期ごとに本人・家族・担当職員で懇談した。
- ・サービス向上委員会を開催して、虐待や人権侵害の防止について共通認識を深めるとともに、職員の行動規範やサービスの内容について研修した。また、第三者委員会を開いて、利用者が直接に第三者と面談ができるように支援した。

② 作業訓練の充実

- ・合計268日の年間作業日の中で、農業を中心とした作業訓練を通して、労働意欲・労働習慣・責任感・挨拶、返事・報告等の育成を図った。
- ・社会マナーの向上のため、挨拶・返事・お辞儀の仕方、座り方、歩き方、お茶の運び方、置き方等について、講師による指導を行った。
- ・乾しいたけ品評会において、岡山県知事表彰（平成25年5月31日）、日本きのこセンター理事長賞（平成25年6月13日）、岡山県備中県民局長賞（平成26年2月7日）を受賞した。
- ・工賃として、自立訓練事業利用者には、7,825円（前年度8,636円）、就労移行事業利用者には、18,352円（前年度19,390円）、就労継続支援事業利用者には、19,429円（前年度18,530円）の月額平均の工賃を支給した。
- ・就労を目指して職場実習を繰り返し行い、その結果一般企業に4名（スーパーマーケット、病院、製造業）と就労継続支援A型事業所に1名が就職した。

③ 生活訓練の充実

- ・平日においては午前6時の起床後に、ラジオ体操とジョギングを行い規則正しい生活習慣の確率に向けた取り組みを行った。
- ・将来の自立生活に向けて、ハンカチの所持、爪やひげの処理等の確認とともに、健康チェックを作業開始前に行い、身だしなみや健康面の自己管理についての意識を促した。

④ 経験の拡大と余暇支援

- ・岡山県障害者スポーツ大会に参加して、陸上競技（1位3名、2位2名、3位5名）、

フライングディスク（1位3名、2位7名、3位6名）、フットベースボール（準優勝）の成績を収めた。

・地元のとんど祭りや納涼祭、健康の森利用促進協議会主催の「自然散策ときのご狩り」に参加して一般住民との交流を図った。また障害者週間では、他施設の利用者とともに、街頭啓発キャンペーンを行い障害者への理解と啓発活動を行った。

⑤ 健康・安全対策の充実

・毎月10日を安全点検日として、建物・設備・危険物（燃料、農薬等）の安全点検を行い事故防止に努めた。

・火災や地震を想定した避難訓練の他、不審者への対応訓練と救急蘇生法の実技講習会や、緊急連絡網により通報訓練を実施して緊急時に備えた。

⑥ 職員資質の向上

・福祉施設職員としての倫理感や、行動規範の振り返りについて、サービス向上委員会が作成した自己点検シートに基づき、職員研修の中で職員全員が自己評価を行った。

⑦ 地域社会との連携

・近隣の養鶏事業所からの依頼を受けて、採卵作業（28,000羽）の作業契約を結び、施設外就労支援活動として職員1名と利用者4名が労働力を提供した。

・高齢等で作付けができなくなった近隣農家2カ所と年間契約により、水稻約70アールの作付と収穫及び、あぜ道の草刈りなど地域農家への支援を行なった。

⑧ 地域生活者の支援

・新見市内で、11カ所のグループホーム（定員49名）を運営し、月平均43.3名の利用者支援を行った。

⑨ 保護者との連携

・「夏の集い」や「収穫祭と作品展」では、各班ごとに出店する模擬店や農産物販売店に、保護者の協力を依頼して職員とともに販売活動を行った。